

2019年度入学者履修科目について

I	第Ⅰ群 芸術教養課程科目（各学科共通授業科目）	1
1	<u>芸術教養科目</u>	1
2	<u>外国語科目</u>	4
3	<u>保健体育科目</u>	9
II	第Ⅱ群（学科別授業科目）	10
I	<u>写真学科</u>	11
II	<u>映画学科</u>	14
III	<u>美術学科</u>	18
IV	<u>音楽学科</u>	21
V	<u>文芸学科</u>	26
VI	<u>演劇学科</u>	29
VII	<u>放送学科</u>	33
VIII	<u>デザイン学科</u>	36
III	第Ⅲ群（学芸員課程）	41
IV	教職課程	43

開講授業科目

I

第 I 群 芸術教養課程科目（各学科共通授業科目）

1 芸術教養科目

- ① 芸術教養科目は、すべての科目のなかから 20 単位以上を選択履修しなければなりません。
- ② 芸術教養科目には、受講できる年次に制限を設けている科目があります。授業年次に表記されている年次から受講できます。それぞれの科目が受講できる年次に注意してください。
- ③ 芸術教養科目は、原則として全科目自由に選択できます。
- ④ 芸術教養科目には、半期完結の科目（前期または後期のみで授業を完結し、単位を個別に認定する）と通年完結の科目があります。それぞれの科目がどちらに属するか注意してください。
- ⑤ 半期完結の芸術教養科目の授業科目の末尾にアラビア数字やローマ数字が付されている場合、原則として「1」「I」「Ⅲ」は前期開講科目を、また「2」「II」「IV」は後期開講科目を意味します。例えば「自主創造の基礎 1」「知の探究 I」「芸術学Ⅲ」は前期開講科目、「自主創造の基礎 2」「知の探究 II」「芸術学Ⅳ」は後期開講科目となります。
- ⑥ 年度により開講しない科目があるので注意してください。
- ⑦ 芸術教養科目では、授業の内容がより予想しやすいようにサブタイトルを授業計画（シラバス）に併記する科目があります。各年度の授業担当者の授業内容が変われば、サブタイトルが変更される可能性があります。そのため、履修単位は学則上の授業科目名（以下の芸術教養課程科目一覧を参照）で扱われます。履修計画を立てるときには十分に注意してください。
- ⑧ 「自主創造の基礎 1」「自主創造の基礎 2」は日本大学全学共通初年次教育科目であり、能動的な学修行動、コミュニケーション能力及び社会人基礎力等を身に付けることを目的とした科目です。なお、「自主創造の基礎 1」「自主創造の基礎 2」は必ず 1 年次に履修してください。
- ⑨ 「Culture and Society」は外国人講師が担当し、すべて英語で行う授業です。

授業科目	授業年次	単位数	必修 単位数	選 択 単位数	履修方法
自主創造の基礎 1	1	2	2		
自主創造の基礎 2	1	2	2		
知 の 探 究 I	1	2		2	
知 の 探 究 II	1	2		2	
ロゴスの探究 I	1	2		2	
ロゴスの探究 II	1	2		2	
エチカの探究 I	1	2		2	
エチカの探究 II	1	2		2	
歴史と文化	1	2		2	
文学の世界 I	1	2		2	
文学の世界 II	1	2		2	
日本の先史文化と環境 I	1	2		2	
日本の先史文化と環境 II	1	2		2	

授業科目	授業年次	単位数	必修 単位数	選択 単位数	履修方法
法 と 政 治	1	2		2	教職課程は必修。
日 本 国 憲 法	1	2		2	
社 会 現 象 の 解 読 I	1	2		2	
社 会 現 象 の 解 読 II	1	2		2	
芸 術 文 化 の 経 済 I	1	2		2	
芸 術 文 化 の 経 済 II	1	2		2	
人 間 の 心 理 I	1	2		2	
人 間 の 心 理 II	1	2		2	
芸 術 と 心 理 I	1	2		2	
芸 術 と 心 理 II	1	2		2	
数 学 的 思 考 の 探 究 I	1	2		2	} 教職課程はどちらか 一科目必修。
数 学 的 思 考 の 探 究 II	1	2		2	
情 報 I	1	2		2	
情 報 II	1	2		2	
自 然 科 学 I	1	2		2	
自 然 科 学 II	1	2		2	
自 然 の 探 究 I	1	2		2	
自 然 の 探 究 II	1	2		2	
言 葉 の し く み	2	2		2	
日 本 の 文 化	1	2		2	
美 学 I	1	2		2	
美 学 II	1	2		2	
美 学 III	1	2		2	
美 学 IV	1	2		2	
芸 術 学 I	1	2		2	
芸 術 学 II	1	2		2	
芸 術 学 III	1	2		2	
芸 術 学 IV	1	2		2	
芸 術 の 思 想 と 表 現 I	1	2		2	
芸 術 の 思 想 と 表 現 II	1	2		2	
音 楽 と 情 報	1	2		2	
芸 術 文 化 と 福 祉	2	2		2	
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	2		2	
色 彩 の 基 礎	1	2		2	
モ ー ド 論	2	2		2	
日 本 の 芸 能 史	1	2		2	
民 俗 芸 能 文 化 論	2	2		2	
ア ー ト と 教 育	1	2		2	
シ ナ リ オ 分 析	2	2		2	
メ デ ィ ア ・ リ テ ラ シ ー I	1	2		2	
メ デ ィ ア ・ リ テ ラ シ ー II	1	2		2	
東 ア ジ ア 世 界 の 考 古 学 I	2	2		2	
東 ア ジ ア 世 界 の 考 古 学 II	2	2		2	

授業科目	授業年次	単位数	必修 単位数	選択 単位数	履修方法
芸術と社会	2	4		4	
形象文化論	2	4		4	
表演芸術論	2	4		4	
メディア芸術論	2	4		4	
芸術理論研究	3	4		4	
芸術特殊研究	2	2		2	
芸術総合講座 I	3	4		4	
芸術総合講座 II	3	4		4	
芸術総合講座 III	3	4		4	
芸術総合講座 IV	3	4		4	
芸術総合講座 V	3	4		4	
芸術総合講座 VI	3	4		4	
芸術総合講座 VII	3	2		2	
芸術総合講座 VIII	3	2		2	
芸術と身体	1	1		1	
芸術理論演習	2	2		2	
芸術批評演習	2	2		2	
芸術リサーチ演習	2	2		2	
Culture and Society	1	1		1	

2 外国語科目

【概要】

① 外国語の種類

外国語には選択必修の英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語（留学生のみ）があります。そのうちひとつの外国語を選んで履修してください。

② 外国語の単位

外国語は必修です。卒業には1外国語8単位以上の修得が必要です。これを1, 2年次に各4単位以上履修します。また留学生は、日本語に代えて英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語を選択することもできます（母語が英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語の場合は不可）。なお、単位修得のためには授業実数の2/3以上の出席を必要とします。

③ 複数の外国語を履修したい場合

選択必修の外国語を履修しながら、同時並行で複数の外国語を履修することもできます。3年次以降では、さらに韓国語、スペイン語、ラテン語を加えた計9ヶ国語（日本語は留学生のみ）を履修できます。下記の表を参照のこと。

選択必修として履修	選択必修以外でも同時並行で履修可能
英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語（留学生のみ）	英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語（留学生のみ）
3年次以降に選択必修以外として	
英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語（留学生のみ）、韓国語、スペイン語、ラテン語	

【クラス名の表記】

① 英語科目のクラス名

(1) 語学名、整理番号（I, II, …）、学科記号、ハイフン、クラス記号（a, b, …）からなります。

【例】写真学科（p）のaクラスの場合。

英語 I p - a 英語 II p - a 英語 III p - a 英語 IV p - a

(2) 但し当該学科に1クラスしかない場合、a, b, cはつかず、III m, IV fのようになります。

(3) 学科記号は次のとおりです。

写 真	p	文 芸	l	学科指定なし g
映 画	c	演 劇	t	(外国人講師担当)
美 術	f	放 送	b	学科指定なし e
音 楽	m	デザイン	d	(日本人講師担当)

② ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語科目のクラス名は、語学名、整理番号（I, II, III, IV）からなります。

例： イタリア語 I イタリア語 II イタリア語 III イタリア語 IV

【英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・中国語・日本語科目の履修方法】

① 1年次生クラス、2年次生クラスとその履修方法

各語学科目とも、整理番号I, IIのつくクラスは1年次に、III, IVのつくクラスは2年次に履修します。英語のクラス（gクラスとeクラスを除く）には学科指定があります。ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語はどのクラスでも全学科自由に履修できます。履修希望者が多い場合は、選抜する可能性があります。

② 再履修の方法

英語を再履修する場合、再履修登録日（授業期間前）に必ず登録しなければなりません。その他の外国語は、不合格になった科目と同じ整理番号（I, II, III, IV）であれば、どのクラスでも再履修登録せずに履修できます。

③ gクラスの履修について

gクラスは、英語技能のいっそうの向上を目指す学生のために設けられたクラスであり、学科指定はなく、外国人講師が担当します。学科指定の英語クラスの代わりに履修することになり、I・II・III・IVの全部またはその一部をgクラスで履修することができます。

ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語を選択必修とした学生も履修できますが、英語の再履修者（2年次生以上で、前年度までに、英語が不合格になった者）は登録できません。英語を選択した履修者が、学科指定のクラスをgクラスへ変更するには、学科指定のクラスの整理番号と同じ番号をもつgクラスへ移動しなければなりません。たとえば、学科指定のクラスの整理番号がIの場合、g-Iしか履修できません。

④ eクラスの履修について

eクラスは、英語技能のいっそうの基礎固めを目指す学生のために設けられたクラスであり、学科指定はなく、日本人講師が担当します。学科指定の英語クラスの代わりに履修することになり、III・IVの両方またはどちらか一つをeクラスで履修することができます。

IIIとIVの2クラスのみ開講なので、2年次生しか履修できません。1年次生は通常の学科指定のIとIIを履修してください。3・4年次生で前年度までにIII・IVの両方あるいは一方が不合格になっている場合も、不合格になったグレードのeクラスは履修できません。gクラスとの同時履修もできません。

その他、履修に際してはいくつか必要な手順がありますので、4月のガイダンス期間に行われる説明会に必ず出席してください。

授業科目				授業年次	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	
英	語	I	1	2		2	1ヶ国語8単位選択必修。 ただし、日本語は留学生のみ履修できる。		
英	語	II	1	2		2			
英	語	III	2	2		2			
英	語	IV	2	2		2			
ド	イ	ツ	語	I	1	2			
ド	イ	ツ	語	II	1	2			
ド	イ	ツ	語	III	2	2			
ド	イ	ツ	語	IV	2	2			
フ	ラ	ン	ス	語	I	1		2	
フ	ラ	ン	ス	語	II	1		2	
フ	ラ	ン	ス	語	III	2		2	
フ	ラ	ン	ス	語	IV	2		2	
イ	タ	リ	ア	語	I	1		2	
イ	タ	リ	ア	語	II	1		2	
イ	タ	リ	ア	語	III	2		2	
イ	タ	リ	ア	語	IV	2		2	
中	国	語	I	1	2	2			
中	国	語	II	1	2	2			
中	国	語	III	2	2	2			
中	国	語	IV	2	2	2			
日	本	語	I	1	2	2			
日	本	語	II	1	2	2			
日	本	語	III	2	2	2			
日	本	語	IV	2	2	2			

〈選択必修以外の外国語——3年次以上対象〉

授業科目	授業年次	単位数	必修 単位数	選択 単位数	履修方法
応用英語 I	3	2		2	留学生のみ履修できる。
応用英語 II	3	2		2	
応用英語 III	3	2		2	
応用英語 IV	3	2		2	
実践ドイツ語 I	3	2		2	
実践ドイツ語 II	3	2		2	
実践フランス語 I	3	2		2	
実践フランス語 II	3	2		2	
実践イタリア語	3	2		2	
実践中国語	3	2		2	
実践日本語	3	2		2	
韓国語	3	2		2	
スペイン語	3	2		2	
ラテン語	3	2		2	

※ 開講科目は、年度によって変わることがあります。

※ 各語学科目の記号 I, II (応用英語については I, II, III, IV) は難易度や学年を示すものではなく、単に内容別、クラス別の記号です。詳しくは各クラスのシラバスを参照のこと。

※ 授業年次は、履修可能最低学年を示します。

〈単位認定科目〉

授業科目	授業年次	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
海外語学研修Ⅰ		2		2	
海外語学研修Ⅱ		2		2	
海外語学研修Ⅲ		1		1	
海外語学研修Ⅳ		1		1	
検 定 英 語		2		2	
検 定 ド イ ツ 語		2		2	
検 定 フ ラ ン ス 語		2		2	
検 定 イ タ リ ア 語		2		2	
検 定 中 国 語		2		2	

【単位認定科目について】

海外語学研修や外国語検定試験により単位認定を申請することができます。

認定単位数は年間登録単位数に含まれます。また、卒業所要単位に含まれますが、選択必修外国語科目の単位数（1外国語8単位以上）には含まれません。

- ※ 認定科目の成績評価は「N」となります。
- ※ 同じ科目名で再度、単位認定を申請することはできません。
- ※ 申請方法等の詳細については掲示等にてお知らせします。

【海外語学研修の単位認定について】

下記の海外留学プログラム等を利用して留学・海外研修に参加し、所定の成績を修めた者は、履修科目の講義内容・講義時間などを勘案した上で、「海外語学研修」として、単位認定できる場合があります。

海外留学プログラム
① 日本大学の募集する留学・海外研修
<海外交換・派遣留学制度>
<短期海外研修>
(1) ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジサマースクール（イギリス） (2) エリザベスタウン・カレッジサマースクール（アメリカ） (3) オーストラリア・スプリングスクール
② 芸術学部の募集する留学
(1) ワシントン州立大学サマースクール (2) マイイツ美術大学
③ 認定留学

- ※ プログラムについては変更となる場合があります。
- ※ 原則として、海外語学研修Ⅰ～Ⅳの順に認定となります。
- ※ ワシントン州立大学サマースクールについては、「体育実技」（1単位）も単位認定できるプログラムです。
- ※ 海外交換・派遣留学制度、認定留学については、上記の他に、本学部の科目に認定できる場合があります。

【外国語検定試験の単位認定について】

英語，ドイツ語，フランス語，イタリア語及び中国語検定試験等の結果が，所定のレベルに達した者は，以下の単位認定基準に基づき単位認定を申請することができます。

<単位認定基準>

外国語科目	試験の種類	レベル	認定科目名	認定単位数
英 語	実用英語技能検定（英検）	2級以上	検 定 英 語	2 単位
	TOEIC (Listening & Reading) ※芸術教養課程主催の「TOEIC IPテスト」を含む	500点以上		
	TOEFL iBT	52点以上		
	IELTS	4.5点以上		
ド イ ツ 語	ドイツ語技能検定試験（独検）	3級以上	検 定 ド イ ツ 語	2 単位
フ ラ ン ス 語	実用フランス語技能検定試験（仏検）	3級以上	検 定 フ ラ ン ス 語	2 単位
イ タ リ ア 語	実用イタリア語検定試験（伊検）	3級以上	検 定 イ タ リ ア 語	2 単位
中 国 語	中国語検定試験（中検）	3級以上	検 定 中 国 語	2 単位

※「TOEIC」・「TOEFL iBT」・「IELTS」については，認定申請日を基準として，2年以内のスコアのみ有効となります。

3 保健体育科目

- ① 保健体育科目は、講義科目（2単位）と実技科目（1単位）があり、いずれも必修科目です。
- ② 講義科目は、担当者により内容が異なります。内容については、各自シラバスで確認してください。原則として自由に選択できますが、教室の定員等により人数を調整する場合があります。
- ③ 実技科目は、必修科目の他に1種目1単位として、最大5単位まで選択科目として単位を修得することができ、それらは卒業単位数に含まれます。ただし、一度単位を修得した種目（競技）は、担当者や年度が変わっても同じ種目（競技）を履修することはできません。
- ④ 実技科目は、江古田校舎で開講する授業の他に、所沢校舎や合宿形式で行う夏期または冬期集中授業があります。開講種目は年度によって変更する場合がありますので、シラバスで確認してください。
- ⑤ 実技科目については、受講生の安全確保および施設や用具の関係により、人数調整を行う場合があります。
- ⑥ 講義科目、実技科目の登録手続きは、4月の申込期間に行います。後期に開講される講義科目および実技科目も、4月に登録手続きを行い決定します。そのため、後期からの受講曜日、種目の変更、追加はできないので、履修計画を立てる際には注意してください。なお、無断で決定外時間の授業を履修、受講しても単位認定はできません。
- ⑦ 実技科目を受講する場合は、スポーツウェア（Tシャツのみ指定）、スポーツシューズを着用してください。また、トレーニングルームで行う種目を履修する場合は、室内専用シューズを着用してください。
- ⑧ 実技科目の、夏期および冬期に行う集中授業は、受講に伴い別途受講費用がかかるものもあるので注意してください。
- ⑨ 実技科目を受講するために、健康診断は必ず受診してください。また、日ごろからの体調管理には十分気を付けてください。

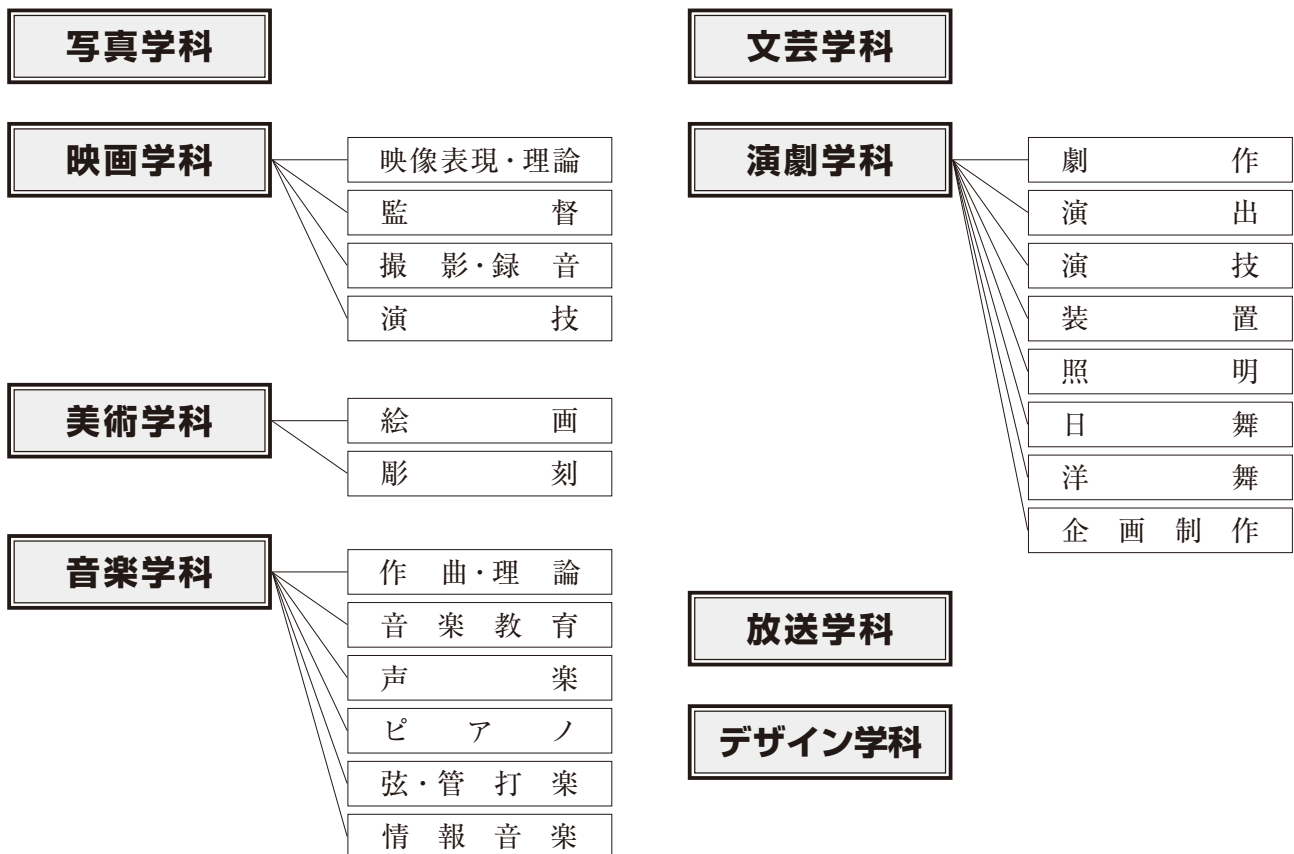
授業科目	授業年次	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
健康・スポーツ科学	1	2	2		
体育実技Ⅰ	1	1	1		
体育実技Ⅱ	1	1		1	
体育実技Ⅲ	1	1		1	
体育実技Ⅳ	1	1		1	
体育実技Ⅴ	1	1		1	
体育実技Ⅵ	1	1		1	

II

第II群 (学科別授業科目)

- 1 学科別授業科目は所属学科開講科目のうち必修科目・選択必修科目・選択科目、卒業論文（制作・演奏・作品・研究）を含み、合計60単位以上を履修、修得しなければなりません。
- 2 学科別授業科目は、理論・歴史部門、研究部門、表現技術部門に分けられています。
- 3 学科別授業科目には学科あるいはコースにより必修・選択必修指定の科目があり、また、履修上いくつかの制約が設けられている科目もあるので十分注意してください。なお、その詳細は学科ごとの履修要項に示されています。

学科(コース) 一覧



I 写真学科

履修のはじめに

写真学科の専門科目は必修科目と選択科目に分かれていますが、必修・選択各科目とも教育効果を考えて受講可能年次の指定があります。受講にあたってはその指定に従い、順次受講することが重要です。

特に、写真基礎演習Ⅰ・写真基礎演習Ⅱ・写真基礎演習Ⅲ・ゼミナールは、写真学科の根幹をなす科目であり、1年次から順次受講をしていくのですが、それぞれの学年で必ず単位修得することを心がけてください。

1年次の「写真基礎演習Ⅰ」と2年次の「写真基礎演習Ⅱ」は、写真の基礎的研究と実技を総合したものであり、系統的な履修を実施し、本格的な研究と制作活動をするための基本的な知識の開発と技術部門の修練を目的としています。それは常に振り返りながら、新しい自主的な創造活動に取り組んでいくための準備段階です。したがって、これらの授業は技術的根幹であると同時に、創造的な研究活動の基本という意味をもちます。具体的には1年次では35mmカメラによる撮影と暗室作業、デジタル一眼レフカメラによる撮影とデジタルプリント作業、2年次では大型カメラによるスタジオ撮影・暗室作業の修得、および、作品制作による各人の深い学びをめざします。そしてこのような専門教育においても可能な限り、学問の総合性を考慮して、関連する知識の導入を計りたいと考えています。そこで、他学科の公開科目や芸術教養科目にも興味をもって受講し、幅広い知識の吸収を心がけてください。

3年次の「写真基礎演習Ⅲ」は、次のような観点から設定されています。つまり、自主的創造活動、研究活動を重視する中であって、自己の研究領域を発見し、そこにすべてのエネルギーを投入することを求めます。そして、発見した世界へ没頭できるような教育環境を作ることが、芸術に関与する大学、研究者としての大きな使命であると我々は考えています。しかしここでも、広い総合性と狭い専門分野の調和ということをお忘れではありません。「写真基礎演習Ⅲ」の各クラスがめざすテーマの有効性は実験的な探求のなかで立証してゆくべきであり、授業の中で備えるべき条件としては、次のようなことが必要でしょう。

- 1 テーマは興味深いもので担当者にとっても、演習者にとっても有効なものであること。
- 2 そのテーマを深く考察、研究することによってその中から卒業制作、あるいは論文への接近ができるような問題を含んだ、奥行きのあるもの。
- 3 グループによる共同研究でも、個々に分担されたテーマであってもさしつかえありません。
- 4 そのテーマの研究、あるいは制作プロセスにおいて演習担当者の指導、助言が必要であることはいうまでもありません。

以上のような条件に包含されたテーマの研究、制作の成果は、各自の自主的、個性的な研究とその創造力に期待すべき点が多いですが、一方、各クラスは開放的な共通性が保たれることも必要で、クラス全体の具体的事例に即した討論、作品発表、統一テーマによる撮影実習、見学なども授業時間の中に計画されています。また、取り上げられるテーマの性質によっては、担当者以外の教員も特別講座の講師として招き、その人の専門分野に属する情報を吸収することも考慮したいと思います。「写真基礎演習Ⅲ」での成果は、4年次の「ゼミナール」へのアプローチとしても重要です。何らかの形で記録され、整理され、客観化されるべきであり、制作発表（写真展など）も必要と思われます。

4年次の「ゼミナール」は、写真芸術、写真の歴史、写真評論、写真ジャーナリズム、報道写真、広告写真、ポートレート、建築写真、コミュニケーションなどの理論および演習を行います。同時に大学生活の総仕上げとして、4年次生は指導教員に卒業論文・制作の計画書を提出し、適宜その助言を受け、適切な指導の下に各自、論文・制作に十分な成果を上げるように配慮してください。

授業科目	授業年次	単位数	必修 単位数	選択 単位数	履修方法	
A 理論・歴史部門						
写真芸術学	4	4	4			
写真史 I	1	2	2			
写真史 II	1	2	2			
写真概論	1	2		2		
イメージングプロセス論 I	1	4	4			
イメージングプロセス論 II	2	2		2		
写真光学	1	2	2			
写真化学	2	2		2		
カメラメカニズム	2	2		2		
電子画像概論	2	2	2			
写真色彩学概論	1	2	2			
写真色彩学応用	1	2		2		
写真印刷	3	2		2		
B 研究部門						
写真作家作品研究 I	2	4		4	} 1科目選択必修	
写真作家作品研究 II	3	4		4		
写真作家作品研究 III	3	4		4		
写真表現研究 I	3	2		2		
写真表現研究 II	3	2		2		
写真表現研究 III	3	2		2		
写真表現研究 IV	3	2		2		
写真表現研究 V	3	2		2		
写真表現研究 VI	3	2		2		
写真表現研究 VII	3	2		2		
写真表現研究 VIII	3	2		2		
写真表現研究 IX	3	2		2		
写真表現研究 X	3	2		2		
写真特別講座 I	2	2		2		
写真特別講座 II	3	2		2		
写真特別講座 III	3	2		2		
C 表現技術部門						
写真技術 I	1	2		2		
写真技術 II	3	2		2		
写真技術 III	3	2		2		
写真技術 IV	3	2		2		
写真技術 V	3	2		2		
写真技術 VI	3	2		2		
画像処理 I	2	2		2		
画像処理 II	3	2		2		
写真表現 I	3	4		4		
写真表現 II	3	2		2		
写真表現 III	3	2		2		
写真表現 IV	3	2		2		
写真表現 V	3	2		2		

授業科目	授業年次	単位数	必修 単位数	選択 単位数	履修方法
写真表現Ⅵ	3	2		2	
インターンシップ	3	2		2	
デザイン手法	3	2		2	
写真基礎演習Ⅰ	1	6	6		
写真基礎演習Ⅱ	2	6	6		
写真基礎演習Ⅲ	3	4	4		
ゼミナール	4	4	4		
卒業論文・制作	4	8	8		

*授業年次は、履修可能最低学年を示します。

(注1) 写真作家作品研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、いずれか1科目を選択必修。

Ⅱ 映画学科

1 映画学科では、履修する主要科目の違いによって以下のコースに分かれています。

映像表現・理論コース

監督コース

撮影・録音コース

演技コース

2 映画学科における受講方法等

①学科別授業科目は映画学科専門科目から卒業までに60単位以上修得しなければならず、なおかつその中に各年次、各コースごとに指定された必修科目すべてが含まれていなければなりません。

②映画学科専門科目のうち、履修方法が変則的な科目の受講要領は以下の通りです。

- (1) 映像表現・理論、映画演出、映画技術、映画演技実習の各科目はそれぞれⅠ・Ⅱ・Ⅲ（映画演技実習の場合のみ映画演技基礎を修得した後のⅠ・Ⅱ）に設定し、開講されていますが、これを順次履修することになります。不合格者の上級科目登録は認めません。
- (2) 撮影・録音コースの撮影研究Ⅰ・撮影研究Ⅱ・録音研究Ⅰ・録音研究Ⅱは、この中から2科目（4単位）以上修得しなければなりません。
- (3) 映画演技実習の実施内容には、試演会及び映画演出・卒業制作の作品に出演することが含まれています。
- (4) 演技コースの発声、音楽、日舞、洋舞の履修方法は、以下の通りです。
 - ・発声Ⅰ、音楽Ⅰ、日舞Ⅰ、洋舞Ⅰは、すべて必修科目です。
 - ・発声Ⅱ、発声Ⅲ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲは、この中から2科目（4単位）以上修得しなければなりません。
 - ・日舞Ⅱ、日舞Ⅲ、洋舞Ⅱ、洋舞Ⅲは、この中から2科目（4単位）以上修得しなければなりません。
- (5) 演技コースの学生は、演劇学科開講科目で受講可能な科目をできるだけ修得することが望まれます。

授業科目	授業年次	単位数	映像表現・理論	監督	撮・録	演技
A 理論・歴史部門						
映画芸術学	1	4	4	4	4	4
映画と諸芸術	3	4				
写真光学(映画)	1	2			2	
映像概論	1	2	2			
映像心理学	3	4				
日本映画史Ⅰ	1	2	2	2	2	2
日本映画史Ⅱ	1	2				
外国映画史Ⅰ	2	2	2	2	2	2
外国映画史Ⅱ	2	2				
外国映画史Ⅲ	3	2				
外国映画史Ⅳ	3	2				
映画理論基礎	1	2	2			
前衛映画史	3	4				
ドキュメンタリー映画史	3	4				
B 研究部門						
シナリオ論	1	4	4	4	4	4
映画作品研究	3	4				
映画鑑賞批評Ⅰ	1	2				
映画鑑賞批評Ⅱ	1	2				
作品批評実習	3	2				
映画文献研究	3	4				
映画特講Ⅰ	3	4				
映画特講Ⅱ	3	4				
映画特講Ⅲ	3	4				
映画特講Ⅳ	3	4				
映画特講Ⅴ	3	4				
映画特講Ⅵ	3	4				
映画特講Ⅶ	3	4				
映像企画発想論	3	4				
映像メディア論	3	4				
映画ビジネスⅠ	2	2				
映画ビジネスⅡ	2	2				
映画ビジネスⅢ	3	2				
映画ビジネスⅣ	3	2				
映像特別講座Ⅰ	3	2				
映像特別講座Ⅱ	3	2				
C 表現技術部門						
映像表現・理論Ⅰ	1	4	4			
映像表現・理論Ⅱ	2	4	4			
映像表現・理論Ⅲ	3	4	4			
映画基礎演習	1	1				
映画演出論	3	4				
映画演技論	3	4				
映画音楽	3	4			4録	

授業科目	授業年次	単位数	映像表現・理論	監督	撮・録	演技
映画技術論	3	4				
センシトメトリー(映画)	3	4			4	
映画研究Ⅰ	3	1				
映画研究Ⅱ	3	1				
映画フィルム概論Ⅰ	1	2				
映画フィルム概論Ⅱ	1	2				
音響基礎	3	2			2	
電気基礎	3	2			2	
録音機器	3	2				
音響表現	3	2				
映画批評演習	2	2				
映画理論演習	3	2				
シナリオ作法Ⅰ	1	2		2		
シナリオ作法Ⅱ	2	2		2		
シナリオ作法Ⅲ	3	2		2		
シナリオ基礎	1	2	2			
シナリオ演習Ⅰ	2	4				
シナリオ演習Ⅱ	3	4				
映画演出Ⅰ	1	4		4		
映画演出Ⅱ	2	4		4		
映画演出Ⅲ	3	4		4		
映画演出基礎	1	4		4		
演技指導実習Ⅰ	2	2		2		2
演技指導実習Ⅱ	3	2		2		2
映画演技基礎	1	2				2
映画演技実習Ⅰ	2	2				2
映画演技実習Ⅱ	3	2				2
発声Ⅰ	1	2				2
発声Ⅱ	2	2				注1
発声Ⅲ	3	2				注1
音楽Ⅰ	1	2				2
音楽Ⅱ	2	2				注1
音楽Ⅲ	3	2				注1
日舞Ⅰ	1	2				2
日舞Ⅱ	2	2				注2
日舞Ⅲ	3	2				注2
洋舞Ⅰ	1	2				2
洋舞Ⅱ	2	2				注2
洋舞Ⅲ	3	2				注2
映画技術基礎	1	4			4	
映画技術Ⅰ	1	4			4	
映画技術Ⅱ	2	4			4	
映画技術Ⅲ	3	4			4	
撮影研究Ⅰ	3	2			注3	
撮影研究Ⅱ	3	2			注3	

授業科目	授業年次	単位数	映像表現・理論	監督	撮・録	演技
映画編集	2・3	2		2	2	
録音研究Ⅰ	3	2			注3	
録音研究Ⅱ	3	2			注3	
映像技術基礎	1	2	2			
映像メディア演習	2	2				
イメージプロセッシング	2	2				
アニメーションⅠ	2	2				
アニメーションⅡ	3	2				
メディアアートⅠ	2	2				
メディアアートⅡ	3	2				
CGⅠ演習Ⅰ	3	2				
CGⅠ演習Ⅱ	3	2				
総合制作演習Ⅰ	2	2				
総合制作演習Ⅱ	3	2				
総合制作演習Ⅲ	4	2				
卒業論文・制作・研究	4	8	8	8	8	8

*コース別の欄に単位数の記載がある科目は、コースごとの必修科目であり、指定の授業年次に必ず履修し単位を修得してください。

注1, 注2はP.33, 2②(4)に従って履修してください。(演技コース)

注3はP.33, 2②(2)に従って履修してください。(撮影・録音コース)

Ⅲ 美術学科

美術学科 履修方法について

美術学科では、履修する主要科目の違いによって以下のコースに分かれています。

絵画コース

彫刻コース

1 各コースの履修方法について

① 絵画コースについて

1年次に絵画Ⅰ（前期2単位）と絵画Ⅱ（後期4単位）を履修して下さい。2年次には絵画Ⅲ（前期4単位）と絵画Ⅳ（後期4単位）を履修して下さい。

卒業制作に油絵と版画のいずれを選択するかによって履修する科目が異なります。

油絵を選択した学生は、3年次に絵画Ⅴ（前期4単位）と絵画Ⅵ（後期4単位）を、4年次に絵画Ⅶ（前期4単位）と絵画Ⅷ（後期4単位）、卒業制作（8単位）をそれぞれ履修して下さい。版画を選択した学生は、3年次に版画Ⅰ（前期4単位）と版画Ⅱ（後期4単位）を、4年次に版画Ⅲ（前期4単位）と版画Ⅳ（後期4単位）、卒業制作（8単位）をそれぞれ履修して下さい。

② 彫刻コースについて

1年次に彫刻Ⅰ（前期2単位）と彫刻Ⅱ（後期4単位）を履修して下さい。2年次には彫刻Ⅲ（前期4単位）と彫刻Ⅳ（後期4単位）を履修して下さい。3年次は彫刻Ⅴ（前期4単位）と彫刻Ⅵ（後期4単位）を履修して下さい。4年次は彫刻Ⅶ（前期4単位）と彫刻Ⅷ（後期4単位）、卒業制作（8単位）をそれぞれ履修して下さい。

③ 両コース共通

理論・歴史部門から美術史概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各2単位）の中から2科目と西洋美術史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、日本美術史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、東洋美術史Ⅰ・Ⅱ（各2単位）の中から4科目を履修して下さい。

研究部門からは、美術作品研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各2単位）と美術作品研究Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ（各2単位）からそれぞれ2科目を履修して下さい。

表現部門からは、1年次にデッサン、版画基礎、彫塑（各1単位）を履修して下さい。

2 履修上の注意

- ① 別表のコースの欄に単位数の記載がある科目は、コースの必修科目なので必ず授業年次に履修しなければなりません。
- ② 別表のコースの欄に単位数の記載がない科目は、原則的に選択科目として授業年次に履修することができます。
- ③ 表現技術部門は、表現活動の実践的な知識と能力の修得を目的とした演習形式の講座であり1年次から4年次まで段階的に履修しなければなりません。不合格者の上級科目登録は認めません。
- ④ 卒業制作（8単位）は卒業論文（8単位）をもって変えることができます。この場合あらかじめ学務委員に申し出て相談して下さい。

授業科目	授業年次	単位数	絵画	彫刻
A 理論・歴史部門				
美術学Ⅰ	3・4	2		
美術学Ⅱ	3・4	2		
解剖学Ⅰ	3・4	2		
解剖学Ⅱ	3・4	2		

授業科目	授業年次	単位数	絵画	彫刻
美術史概論 I	1・2	2	}	}
美術史概論 II	1・2	2		
美術史概論 III	1・2	2		
美術史概論 IV	1・2	2		
西洋美術史 I	3・4	2	}	}
西洋美術史 II	3・4	2		
西洋美術史 III	3・4	2		
西洋美術史 IV	3・4	2		
日本美術史 I	3・4	2	}	}
日本美術史 II	3・4	2		
日本美術史 III	3・4	2		
日本美術史 IV	3・4	2		
東洋美術史 I	3・4	2	}	}
東洋美術史 II	3・4	2		
B 研究部門				
素材研究	3・4	2		
美的構成研究 I	3・4	2		
美的構成研究 II	3・4	2		
版画概論 I	3・4	2		
版画概論 II	3・4	2		
美術作品研究 I	1・2	2	}	}
美術作品研究 II	1・2	2		
美術作品研究 III	1・2	2		
美術作品研究 IV	1・2	2		
美術作品研究 V	3・4	2	}	}
美術作品研究 VI	3・4	2		
美術作品研究 VII	3・4	2		
美術作品研究 VIII	3・4	2		
美術特別講座 I	1・2	2		
美術特別講座 II	3・4	2		
古美術研究	3	4		
版画作品研究	1・2	2		
美術特別研究 I	1・2	2		
美術特別研究 II	3・4	2		
C 表現技術部門				
デザイン	1	1	1	1
彫刻 I	1	2		2
彫刻 II	1	4		4
彫刻 III	2	4		4
彫刻 IV	2	4		4
彫刻 V	3	4		4
彫刻 VI	3	4		4
彫刻 VII	4	4		4
彫刻 VIII	4	4		4
絵画 I	1	2	2	
絵画 II	1	4	4	

授業科目			授業年次	単位数	絵画	彫刻
絵	画	Ⅲ	2	4	4	
絵	画	Ⅳ	2	4	4	
絵	画	Ⅴ	3	4	4	
絵	画	Ⅵ	3	4	4	
絵	画	Ⅶ	4	4	4	
絵	画	Ⅷ	4	4	4	
版	画	Ⅰ	3	4	4	
版	画	Ⅱ	3	4	4	
版	画	Ⅲ	4	4	4	
版	画	Ⅳ	4	4	4	
版	画	基礎	1	1	1	1
彫		塑	1	1	1	1
古	典	技法	3	1		
卒	業	論文・制作	4	8	8	8
D 教職教科部門						
(教職免許を修得するための科目により卒業単位には含まれません)						
デ	ザ	イン論	Ⅰ	1・2	2	
デ	ザ	イン論	Ⅱ	1・2	2	
図		学	Ⅰ	1・2	2	
図		学	Ⅱ	1・2	2	
映	像	メディア研究		3	1	
美	術	教材研究	Ⅰ	3・4	2	
美	術	教材研究	Ⅱ	3・4	2	
工	芸	演習	Ⅰ	2	2	
工	芸	演習	Ⅱ	2	2	

IV 音楽学科

1 コース区別

音楽学科は、履修する主要科目の違いによって次の6コースに分かれています。

A 作曲・理論コース

作曲

理論

B 音楽教育コース

C 声楽コース

D ピアノコース

E 弦管打楽コース

弦 楽 (Vn., Va., Vc., Cb., Gt., Harp.)

管打楽 (Fl., Ob., Cl., Fg., Sax., Hr., Tp., Tb., Euph., Tub., Perc.)

F 情報音楽コース

注. A～Fは学生番号の記号。弦楽・管打楽の()内は専攻楽器。

2 主要科目

各コースの主要科目は次のとおりです。

作曲・理論コース	{	作曲	作曲・和声・記譜法
		理論	音楽学・音楽学研究・ゼミナール
音楽教育コース			音楽教育学・ゼミナール
声楽コース			声楽・オペラ
ピアノコース			ピアノ・演奏論
弦管打楽コース	{	弦 楽	弦楽器・オーケストラ・室内楽
		管打楽	管打楽器・オーケストラ・吹奏楽
情報音楽コース			音楽情報処理・音響信号処理・ゼミナール

コース別単位履修表

- 1 各コース欄に単位数の記載のある科目は、当該コースの必修科目であるので必ず履修しなければなりません。
- 2 コース欄に○印が付してある科目は、準必修科目として優先的に履修しなければなりません。
- 3 コース欄が空欄になっている科目は、選択科目として所定の授業年次または当該年次以降において履修することができます。なおコース欄に-印のある科目は履修することができません。
- 4 表現技術部門の科目で、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと表記されている科目は、段階的に履修しなければなりません。また同一年度において2段階以上（例：ⅠとⅡ、ⅡとⅢ等）の同時履修はできません（ミュージックコンピューティングとDSP演習を除く）。

授業科目	授業年次	単位数	作曲・理論		音楽教育	音楽	ピアノ	弦管打楽		情報音楽
			作曲	理論				弦楽	管打楽	
A 理論・歴史部門										
音楽学Ⅰ	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4
音楽学Ⅱ	2	4		4						
音楽概論	1	2								
音楽形式学	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4
音楽教育学	2	4			4					
音楽声学	3	4				○				
作曲論Ⅰ	3	2								
作曲論Ⅱ	3	2								
演奏論Ⅰ	1	2					2			
演奏論Ⅱ	3	2					2			
音楽史Ⅰ	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
音楽史Ⅱ	2	2								
音楽史Ⅲ	3	2								
音楽史Ⅳ	3	2								
音楽史Ⅴ	3	2								
音楽史Ⅵ	3	2								
B 研究部門										
音楽学研究Ⅰ	2	2		2						
音楽学研究Ⅱ	2	2		2						
音楽教育学研究	3	4								
音楽教育研究Ⅰ	1	4			○					
音楽教育研究Ⅱ	2	4								
音楽教育研究Ⅲ	2	4								
音楽情報処理Ⅰ	1	2		-	-	-	-	-	-	2
音楽情報処理Ⅱ	1	2		-	-	-	-	-	-	○
音響信号処理Ⅰ	2	2		-	-	-	-	-	-	2
音響信号処理Ⅱ	2	2		-	-	-	-	-	-	○
音楽音響研究	3	2		-	-	-	-	-	-	2
音楽知覚認知研究	3	2		-	-	-	-	-	-	2
イノベーション	3	2	-	-	-	-	-	-	-	○
R & D 研究	3	2	-	-	-	-	-	-	-	○

授業科目	授業年次	単位数	作曲・理論		音楽教育	声楽	ピアノ	弦管打楽		情報音楽
			作曲	理論				弦楽	管打楽	
音楽療法研究Ⅰ	1	2								
音楽療法研究Ⅱ	1	2								
音楽療法研究Ⅲ	3	2								
音楽療法研究Ⅳ	3	2								
音楽療法研究Ⅴ	3	2								
音楽療法研究Ⅵ	3	2								
音楽作品研究	3	2		(2)						
音楽作品分析	3	2		(2)						
日本の伝統音楽研究	3	2		(2)						
民族音楽研究	3	2		(2)						
ジャズ研究	3	2		(2)						
ポピュラー音楽研究	3	2								
記譜法	3	2	2							
日本歌曲研究	3	2								
外国歌曲研究Ⅰ	3	2								
外国歌曲研究Ⅱ	3	2								
音楽特殊研究Ⅰ	3	2								
音楽特殊研究Ⅱ	3	2								
音楽特殊研究Ⅲ	3	4								
音楽療法特殊研究Ⅰ	2	2								
音楽療法特殊研究Ⅱ	2	2								
音楽療法特殊研究Ⅲ	3	2								
音楽療法特殊研究Ⅳ	3	2								
音楽文献原典講読Ⅰ	3	2		2						
音楽文献原典講読Ⅱ	3	2								
音楽特別講座Ⅰ	1	2								
音楽特別講座Ⅱ	3	2								
C 表現技術部門										
作曲Ⅰ	1	4	4	—	—	—	—	—	—	—
作曲Ⅱ	2	4	4	—	—	—	—	—	—	—
作曲Ⅲ	3	4	4	—	—	—	—	—	—	—
作曲Ⅳ	4	4		—	—	—	—	—	—	—
副科作曲Ⅰ注2	2～4	2	—	2	2	2	2	2	2	2
副科作曲Ⅱ	3・4	2	—							
和声Ⅰ	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
和声Ⅱ	2	2	2							
和声Ⅲ	3	2								
フーガ	1	2	2							
編曲法	3	2								
ピアノⅠ	1	4	—	—	—	—	4	—	—	—
ピアノⅡ	2	4	—	—	—	—	4	—	—	—
ピアノⅢ	3	4	—	—	—	—	4	—	—	—
ピアノⅣ	4	4	—	—	—	—		—	—	—
副科ピアノⅠ	1	2	2	2	2	2	—	2	2	2

授業科目	授業年次	単位数	作曲・理論		音楽教育	声乐	ピアノ	弦管打楽		情報音楽
			作曲	理論				弦楽	管打楽	
副科ピアノⅡ	2	2	2	2	2	2	—	2	2	
副科ピアノⅢ	3	2					—			
副科ピアノⅣ	4	2					—			
オルガンⅠ	3	2								
オルガンⅡ	4	2								
伴奏法Ⅰ	2	2								
伴奏法Ⅱ	3	2								
声乐Ⅰ	1	4	—	—	—	4	—	—	—	—
声乐Ⅱ	2	4	—	—	—	4	—	—	—	—
声乐Ⅲ	3	4	—	—	—	4	—	—	—	—
声乐Ⅳ	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—
副科声乐Ⅰ	1・2	2	2	2	2	—	2	2	2	2
副科声乐Ⅱ	注2	2				—				
副科声乐Ⅲ		3				—				
合唱Ⅰ	1～3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合唱Ⅱ	注2	2～4				2				
合唱Ⅲ		3								
合唱Ⅳ		4								
オペラⅠ	2	2				2				
オペラⅡ	3	2				2				
オペラⅢ	4	2				○				
弦楽器Ⅰ	1	4	—	—	—	—	—	4	—	—
弦楽器Ⅱ	2	4	—	—	—	—	—	4	—	—
弦楽器Ⅲ	3	4	—	—	—	—	—	4	—	—
弦楽器Ⅳ	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—
副科弦楽器Ⅰ	1	2								
副科弦楽器Ⅱ	2	2								
副科弦楽器Ⅲ	3	2								
管打楽器Ⅰ	1	4	—	—	—	—	—	—	4	—
管打楽器Ⅱ	2	4	—	—	—	—	—	—	4	—
管打楽器Ⅲ	3	4	—	—	—	—	—	—	4	—
管打楽器Ⅳ	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—
副科管打楽器Ⅰ	1	2								
副科管打楽器Ⅱ	2	2								
副科管打楽器Ⅲ	3	2								
オーケストラⅠ	1	2						2	2	
オーケストラⅡ	2	2						2	2	
オーケストラⅢ	3	2						2	2	
オーケストラⅣ	4	2						○	○	
吹奏楽Ⅰ	1	2							2	
吹奏楽Ⅱ	2	2							2	
吹奏楽Ⅲ	3	2							2	
吹奏楽Ⅳ	4	2							○	
室内楽Ⅰ	1	2						2	2	

授業科目	授業年次	単位数	作曲・理論		音楽教育	声楽	ピアノ	弦管打楽		情報音楽
			作曲	理論				弦楽	管打楽	
室内楽Ⅱ	2	2						2	2	
室内楽Ⅲ	3	2						2	○	
室内楽Ⅳ	4	2						○	○	
ミュージックコンピューティングⅠ	1	1		—	—	—	—	—	—	1
ミュージックコンピューティングⅡ	1	1		—	—	—	—	—	—	○
D S P 演習Ⅰ	2	1		—	—	—	—	—	—	1
D S P 演習Ⅱ	2	1		—	—	—	—	—	—	○
サウンドデザイン演習	3	1		—	—	—	—	—	—	1
レコーディング演習	2	1								1
スタジオ演習	3	1								○
デジタルコンテンツ演習	4	1								○
ソルフェージュⅠ	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ソルフェージュⅡ	2	2	2	2	2	2	2			
ソルフェージュⅢ	3	2								
指揮法演習	3	2								
音楽教材演習	3	2								
教育用楽器等合奏法	3	2								
音楽療法演習Ⅰ	1	2								
音楽療法演習Ⅱ	2	2								
音楽療法演習Ⅲ	3	2								
音楽療法演習Ⅳ	4	2								
音楽療法実習Ⅰ	3	2								
音楽療法実習Ⅱ	4	2								
ゼミナールⅠ	3	2	—	2	2	—	—	—	—	2
ゼミナールⅡ	4	2	—	○	○	—	—	—	—	○
音楽特別演習Ⅰ	2	2	2	—	—	2	2	2	2	—
音楽特別演習Ⅱ	3	2	2	—	—	2	2	2	2	—
音楽特別演習Ⅲ	4	2		—	—					—
卒業論文・演奏・作品	4	8	8	8	8	8	8	8	8	8

注1 理論コースの学生は、4科目の中から合計4単位を選択必修。

注2 履修年次はガイダンスで指示します。

V 文芸学科

1 文芸研究の履修について

文芸研究は、表現活動の実践的な知識と能力の修得を目的としたゼミナール形式の講座であり、下記の通り1年次から4年次まで段階的に履修（必修）しなければなりません。

●文芸研究Ⅰ（1年次）、文芸研究Ⅱ（2年次）、文芸研究Ⅲ（3年次）、文芸研究Ⅳ（4年次）

なお、文芸研究Ⅲと文芸研究Ⅳは2年間継続して履修しなければなりません。

☆ただし、再履修する場合は、再履修科目と学年次指定科目を同時に履修することができます。

例：1年次に文芸研究Ⅰの単位を修得できなかった場合、2年次に文芸研究Ⅰと文芸研究Ⅱを同時に履修することができます。

2 文芸入門講座について

文芸入門講座は必修科目です。1年次に履修してください。

3 卒業論文・作品について

4年次に必ず履修してください。

授業科目	授業年次	単位数	必修	選択
A 理論・歴史部門				
文芸理論	1	4		4
文学概論	1	4		4
文化概論	2・3	4		4
言語学	2・3	4		4
外国文芸史Ⅰ	1	4		4
外国文芸史Ⅱ	1	4		4
外国文芸史Ⅲ	2・3	4		4
古典文学史	2・3	4		4
現代文学史	2・3	4		4
日本文化史	2・3	4		4
近代思想論	2・3	4		4
文芸入門講座	1	4	4	
B 研究部門				
作家作品論	2・3	4		4
小説論	2・3	4		4
文體論	2・3	4		4
創作論Ⅰ	1	4		4
創作論Ⅱ	1	4		4
創作論Ⅲ	2・3	4		4
伝記論	2・3	4		4
文芸批評論	2・3	4		4
エッセイ研究	2・3	4		4
児童文学論	2・3	4		4
現代詩研究	2・3	4		4
詩歌論	2・3	4		4
シナリオ研究	2・3	4		4

授業科目	授業年次	単位数	必修	選択
幻想小説論	1	2		2
S F 小説論 I	1	2		2
S F 小説論 II	1	2		2
ミステリー小説論	1	2		2
ノンフィクション論	2・3	4		4
マンガ論	1	4		4
ジャーナリズム論	2・3	4		4
メディア論	2・3	4		4
マスコミ研究	2・3	4		4
出版文化論	1	4		4
翻訳文学論	2・3	4		4
雑誌研究	2・3	4		4
戯曲研究	2・3	4		4
文芸特殊講義 I	2・3	4		4
文芸特殊講義 II	2・3	4		4
文芸特殊講義 III	1	4		4
文芸特殊講義 IV	2・3	4		4
文芸特殊講義 V	2・3	4		4
文芸特殊講義 VI	2・3	4		4
文芸特殊講義 VII	2・3	4		4
文芸特殊講義 VIII	2・3	4		4
原書講読 I	1	2		2
原書講読 II	2・3	2		2
原書講読 III	2・3	2		2
原書講読 IV	2・3	2		2
文芸特別講座 I	2・3	2		2
文芸特別講座 II	2・3	2		2
C 表現技術部門				
文芸研究 I	1	4	4	
文芸研究 II	2	4	4	
文芸研究 III	3	4	4	
文芸研究 IV	4	4	4	
文芸特殊研究 I	2・3	4		4
文芸特殊研究 II	1	4		4
編集演習	2・3	2		2
文芸創作実習 I	1	2		2
文芸創作実習 II	1	2		2
文芸創作実習 III	2・3	2		2
ジャーナリズム実習 I	1	2		2
ジャーナリズム実習 II	1	2		2
ジャーナリズム実習 III	2・3	2		2
文芸研究実習 I	1	2		2
文芸研究実習 II	1	2		2
文芸研究実習 III	2・3	2		2
DTP実習 I	1	2		2

授業科目					授業年次	単位数	必修	選択
D	T	P	実	習	Ⅱ	1		2
D	T	P	実	習	Ⅲ	2・3		2
マ	ン	ガ	実	習	2・3	2		2
卒	業	論	文	・	作	4	8	
D 教職教科部門								
国			語		学	2	4	4
国			文		学	2	4	4
漢			文		学	3	4	4
漢	文		学		史	3	4	4
書					道	3	4	4

*授業年次は、履修可能最低学年次を示します。

*段階制科目は授業年次の欄の最低学年次より履修しなければなりません。

VI 演劇学科

演劇学科の科目履修については、主として演習・実習科目の履修にかかわるコース制度と、3・4年次の主として研究・演習科目の履修にかかわるゼミナールのシステムがあるので、理解しておかなければなりません。

コース制度は、科目の指定、クラスの編成などにかかわりがあります。(コースに関する規定は年次によって異なることがあるので、毎年度初頭のガイダンスに注意してください。)

ゼミナールのシステムとは、卒業のための要件である卒業論文・制作の提出・発表にむけて、3年次のゼミナール(I～VI)と4年次の卒業ゼミナールをそれぞれ履修条件を満たしたうえで選択的に受講してゆく、というものです。(開設されるゼミナールは年度によって異なることがあるので、ガイダンス・掲示などに注意してください。)

下記の事項また授業科目リストにおける各欄の意味を理解のうえ、計画的に受講・履修をすすめてください。

- * 授業年次は履修可能最低学年または履修学年を示します。
- * 必修の欄に単位数の記載のある科目は卒業要件にかかわる必修科目および選択必修科目です。
- * コース指定の欄に単位数の記載がある科目は各コースが指定した科目です。
- * 理論・歴史および研究部門の選択科目は全コースの学生が履修できます。但し表現技術部門の科目については、コースの限定その他の履修条件が付されるものがあるので、演劇学科によるガイダンスまた受講年度のシラバスにおける履修条件の項に注意してください。

授業科目	授業年次	単位数	必修	選択	コース指定								
					劇作	演出	演技	装置	照明	日舞	洋舞	企画制作	
A 理論・歴史部門													
演劇概論 I	1	2	2										
演劇概論 II	2	2	2										
演劇学	3	2		2									
舞踊学	3	2		2									
パフォーマンス学	3	2		2									
劇場論 I	3	2		2									
劇場論 II	3	2		2									
戯曲論	3	2		2	2								
演出論	3	2		2		2							
演技論	2	2		2			2						
舞踊論 I	3	2		2					2				
舞踊論 II	3	2		2							2		
演劇教育論 I	3	2		2									
演劇教育論 II	3	2		2									
演劇史 I	1	2	2										
演劇史 II	1	2	2										
演劇史 III	3	2		2									
演劇史 IV	3	2		2									
演劇史 V	3	2		2									

授業科目	授業 年次	単位数	必修	選択	コース指定								
					劇作	演出	演技	装置	照明	日舞	洋舞	企画制作	
舞踊史 I	2	2		2						2			
舞踊史 II	2	2		2								2	
B 研究部門													
演劇美学研究	3	2		2									
応用演劇研究	3	2		2									
東洋演劇研究	3	2		2									
演劇批評研究	3	2		2									
古典演劇研究 I	3	2		2									
古典演劇研究 II	3	2		2									
現代演劇研究 I	3	2		2									
現代演劇研究 II	3	2		2									
作家作品研究 I	3	2		2									
作家作品研究 II	3	2		2									
装置研究	3	2		2				2					
照明研究	3	2		2					2				
舞台技術研究 I	3	2		2									
舞台技術研究 II	3	2		2									
企画制作研究 I	3	2		2									
企画制作研究 II	3	2		2									
企画制作研究 III	3	2		2									
演劇特殊研究 I	3	2		2									
演劇特殊研究 II	3	2		2									
演劇特殊研究 III	3	2		2									
演劇特殊研究 IV	3	2		2									
演劇特殊研究 V	3	2		2									
演劇特殊研究 VI	3	2		2									
演劇特殊研究 VII	3	2		2									
演劇特殊研究 VIII	3	2		2									
演劇特殊研究 IX	3	2		2									
演劇特殊研究 X	3	2		2									
C 表現技術部門													
演劇基礎演習	1	2		2									
戯曲演習	1	2		2	2								
演出演習	1	2		2		2							
演技演習	1	2		2			2						
舞台装置演習	1	2		2				2					
舞台照明演習	1	2		2					2				
日本舞踊演習	1	2		2						2			
西洋舞踊演習	1	2		2							2		
企画制作演習	1	2		2								2	
演劇教育演習	3	2		2									
舞台技術演習	1	2		2									
音響効果演習	1	1		1									
舞台扮装演習	2	1		1									

授業科目	授業 年次	単位数	必修	選択	コース指定								
					劇作	演出	演技	装置	照明	日舞	洋舞	企画制作	
演劇プロデュース演習	3	2		2									
東洋舞踊演習	3	2		2									
応用演劇演習	3	2		2									
特殊演習Ⅰ	3	2		2									
特殊演習Ⅱ	3	2		2									
特殊演習Ⅲ	3	1		1									
特殊演習Ⅳ	3	1		1									
特殊演習Ⅴ	3	1		1									
特殊演習Ⅵ	3	1		1									
特殊演習Ⅶ	3	1		1									
特殊演習Ⅷ	3	1		1									
劇作実習Ⅰ	1	2		2	2								
劇作実習Ⅱ	2	2		2	2								
劇作実習Ⅲ	2	2		2	2								
劇作実習Ⅳ	3	2		2	2								
演出実習Ⅰ	1	2		2		2							
演出実習Ⅱ	1	2		2		2							
演出実習Ⅲ	2	2		2		2							
演出実習Ⅳ	2	2		2		2							
演技実習Ⅰ	1	2		2			2						
演技実習Ⅱ	1	2		2			2						
演技実習Ⅲ	2	2		2			2						
演技実習Ⅳ	2	2		2			2						
舞台装置実習Ⅰ	1	2		2			2						
舞台装置実習Ⅱ	1	2		2			2						
舞台装置実習Ⅲ	2	2		2			2						
舞台装置実習Ⅳ	2	2		2			2						
舞台照明実習Ⅰ	1	2		2				2					
舞台照明実習Ⅱ	1	2		2				2					
舞台照明実習Ⅲ	2	2		2				2					
舞台照明実習Ⅳ	2	2		2				2					
日本舞踊実習Ⅰ	1	2		2					2				
日本舞踊実習Ⅱ	2	2		2					2				
日本舞踊実習Ⅲ	2	2		2					2				
日本舞踊実習Ⅳ	3	2		2					2				
西洋舞踊実習Ⅰ	1	2		2						2			
西洋舞踊実習Ⅱ	2	2		2						2			
西洋舞踊実習Ⅲ	2	2		2						2			
西洋舞踊実習Ⅳ	3	2		2						2			
企画制作実習Ⅰ	1	2		2								2	
企画制作実習Ⅱ	2	2		2								2	
企画制作実習Ⅲ	2	2		2								2	
企画制作実習Ⅳ	3	2		2								2	
演劇特殊実習Ⅰ	3	2		2									

授業科目	授業年次	単位数	必修	選択	コース指定									
					劇作	演出	演技	装置	照明	日舞	洋舞	企画制作		
演劇特殊実習Ⅱ	3	2		2										
演劇特殊実習Ⅲ	3	1		1										
演劇特殊実習Ⅳ	3	1		1										
演劇特殊実習Ⅴ	3	1		1										
演劇特殊実習Ⅵ	3	1		1										
上演実習Ⅰ	2	2		2						2	2			
上演実習Ⅱ	3	2		2						2	2			
上演実習Ⅲ	3	2		2										
上演実習Ⅳ	3	2		2										
総合実習Ⅰ	2	3		3				3	3	3	3			
総合実習Ⅱ	3	3		3				3	3	3	3			
総合実習Ⅲ	3	3		3				}3	}3				}それぞれⅢ・Ⅳより1科目 コース指定	
総合実習Ⅳ	3	3		3										
舞台技術実習Ⅰ	2	2		2				2	2					
舞台技術実習Ⅱ	3	2		2				2	2					
舞台技術実習Ⅲ	3	2		2										
ゼミナールⅠ	3	2	}2	2										}Ⅰ～Ⅵより 1科目必修
ゼミナールⅡ	3	2		2										
ゼミナールⅢ	3	2		2										
ゼミナールⅣ	3	2		2										
ゼミナールⅤ	3	2		2										
ゼミナールⅥ	3	2		2										
卒業ゼミナール	4	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2		
卒業研究	4	8	8											

Ⅶ 放送学科

1 専攻について

専攻は、実習を中心に据えて、その周辺に配置された演習・実習科目やその他の理論系科目と緊密な連携をとりながら、各専門分野について総合的に学ぶ場です。

専攻は以下の分野に分かれています。いずれかひとつの専攻を選択し、それぞれの実習、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの段階を履修しなければなりません（選択必修）。

専攻を途中で変更する場合、実習については、新たにⅠの段階より履修しなければなりません。

【専攻分野】

テレビ制作	ラジオ制作	映像技術	音響技術	CM
-------	-------	------	------	----

【実習】

1年次（選択必修）	2年次（選択必修）	3年次（選択必修）
テレビ制作Ⅰ	テレビ制作Ⅱ	テレビ制作Ⅲ
ラジオ制作Ⅰ	ラジオ制作Ⅱ	ラジオ制作Ⅲ
映像技術Ⅰ	映像技術Ⅱ	映像技術Ⅲ
音響技術Ⅰ	音響技術Ⅱ	音響技術Ⅲ
CMⅠ	CMⅡ	CMⅢ

また、独立して「脚本実習」「アナウンス実習」が段階的に設置されています。この二つの実習科目は、専攻分野の目的と合わせて並行受講することができます（選択）。ただし、受講に際しては、一年次のそれぞれの演習（アナウンス演習・脚本演習）の単位を取得している必要があります。

2年次（選択／履修条件あり）	3年次（選択／履修条件あり）
脚本実習Ⅰ	脚本実習Ⅱ
アナウンス実習Ⅰ	アナウンス実習Ⅱ

2 演習について

演習は、放送表現に関わる基礎知識・技術を実践的に習得する場です。

3 卒業研究ゼミナール／卒業研究について

各専攻分野で学んできた成果を計るために、4年次では、卒業研究（論文／制作／発表など）を提出しなければなりません。そのため、3年次より2年間にわたって、各自の専攻、制作、研究分野に合わせて卒業研究ゼミナールを履修し、指導を受けることになります（必修）。

*なお科目の詳細については、授業計画（シラバス）及び学科履修要項を参照して下さい。

授業科目	授業年次	単位数	必修	選択
A 理論・歴史部門				
放送概論	1	4		4
ラジオ史	1・2	4		4

授業科目	授業年次	単位数	必修	選択
テレビ史	1・2	4		4
放送制度論	2	4		4
放送文化論	1・2	4		4
放送社会学	1・2	4		4
電気概論	2	4		4
放送契約論	3・4	4		4
放送事業研究	3・4	4		4
情報通信ビジネス	3・4	4		4
B 研究部門				
番組編成論	3・4	4		4
ラジオの編成と制作	3・4	4		4
視聴者調査論	3・4	4		4
スポーツ番組研究	3・4	4		4
制作技術研究	3・4	4		4
広告とマーケティング戦略	3・4	4		4
作品研究 I	2	4		4
作品研究 II	2	4		4
作品研究 III	3・4	4		4
作品研究 IV	3・4	4		4
作品研究 V	3・4	4		4
作品研究 VI	3・4	4		4
作品研究 VII	3・4	4		4
作品研究 VIII	3・4	4		4
作品研究 IX	3・4	4		4
作品研究 X	3・4	4		4
放送特殊研究 I	3・4	4		4
放送特殊研究 II	3・4	4		4
放送特殊研究 III	3・4	4		4
放送特殊研究 IV	3・4	4		4
放送特殊研究 V	3・4	4		4
放送特殊研究 VI	3・4	4		4
放送特殊研究 VII	3・4	4		4
放送特殊研究 VIII	3・4	4		4
放送特殊研究 IX	3・4	4		4
放送特殊研究 X	3・4	4		4
卒業研究ゼミナール I	3	2	2	
卒業研究ゼミナール II	4	2	2	
放送特別講座 I	3・4	2		2
放送特別講座 II	3・4	2		2
C 表現技術部門				
テレビ演出論	2	4		4
ラジオ演出論	2	4		4
放送脚本論	2	4		4
放送広告論	2	4		4
放送技術概論	2	4		4
ドキュメンタリーの演出	3・4	4		4

授業科目	授業年次	単位数	必修	選択
テレビドラマの表現	3・4	4		4
放送表現と人権	3・4	4		4
放送美術論	3・4	4		4
音響技術論Ⅰ	2	4		4
音響技術論Ⅱ	3	4		4
映像技術論Ⅰ	2	4		4
映像技術論Ⅱ	3	4		4
映像制作演習	1	1	1	
音響制作演習	1	1	1	
企画演習	1	1		1
取材調査演習	1	1		1
テレビ制作Ⅰ	1	1	}	
ラジオ制作Ⅰ	1	1		
映像技術Ⅰ	1	1		
音響技術Ⅰ	1	1		
C MⅠ	1	1		
脚本演習	1	1		
アナウンス演習	1	1		1
テレビ制作Ⅱ	2	2	}	
ラジオ制作Ⅱ	2	2		
映像技術Ⅱ	2	2		
音響技術Ⅱ	2	2		
C MⅡ	2	2		
脚本実習Ⅰ	2	2		2
アナウンス実習Ⅰ	2	2		2
テレビ制作Ⅲ	3	2	}	
ラジオ制作Ⅲ	3	2		
映像技術Ⅲ	3	2		
音響技術Ⅲ	3	2		
C MⅢ	3	2		
脚本実習Ⅱ	3	2		2
アナウンス実習Ⅱ	3	2		2
テレビ企画構成演習Ⅰ	2	2		2
テレビ企画構成演習Ⅱ	3・4	2		2
ラジオ企画構成演習Ⅰ	2	2		2
ラジオ企画構成演習Ⅱ	3・4	2		2
コピー・コンテ演習Ⅰ	2	2		2
コピー・コンテ演習Ⅱ	3・4	2		2
ニュース分析Ⅰ	2	2		2
ニュース分析Ⅱ	3・4	2		2
ルポルタージュⅠ	2	2		2
ルポルタージュⅡ	3・4	2		2
照明演習	3・4	2		2
文章講座	3・4	2		2
卒業研究	4	8	8	

Ⅷ デザイン学科

1 デザイン学科の科目履修について

- ・1年次では、基礎的な造形力やデザインの基本的技法等の知識を身につけるための講義科目や実習・演習科目が必修となっています。必修科目は全て1年次で履修し単位を修得してください。これらの授業内容を把握していることを前提に2年次以降の専門科目は内容が設定されています。
- ・別表の授業年次に従って履修し、単位を修得してください。時間割は年度ごとに変更されますので、卒業に係わる単位修得に十分注意し、余裕を持った履修計画を立ててください。特に4年次は、デザインゼミナール、卒業論文・制作に集中できる履修計画を立てることが望まれます。

2 専門分野の決定

- ・デザイン学科では7つの専門分野を設け、これに基づいてカリキュラムが決められています。
- ・1年次にはデザインの基礎であり全分野共通となるコミュニケーションデザインを学び、デザイン全般に対する理解を深めます。2年次以降は、本人の希望や適性に応じて専門分野の科目を自由に選択することができます。デザイン学科では、将来の進路や目標を見据えて専門分野を各自で決め、より高い専門性を身につけるとともに、関連する他分野の科目を履修するなどにより、従来の分野や領域にとらわれない柔軟性を備えたデザイナー、クリエイターの育成を目指しています。
- ・各年次の終了時には、各自の適性、技量、科目の成績、提出作品内容、そして授業態度などの総ての評価を基に、適切な専門科目の選択や将来の方向性を定めるための進路カウンセリングによる個別指導を行います。

3 資格修得の科目について

- ・デザイン学科では、教職課程および学芸員課程を履修し、中学校教諭一種免許状（美術）、高等学校教諭一種免許状（美術／工芸）、学芸員資格が修得できます。詳細はガイダンス時に説明を行いますので資格修得希望者は、必ず説明会に出席の上、受講手続きを取ってください。
- ・デザイン学科では、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格の認定を受けています。各建築士資格により在学中に修得しなければならない指定科目が設定されています。別表を参考にして必要な指定科目を各自確認の上、それぞれの資格に応じた履修計画を立てるように留意してください。建築士試験の指定科目制度をよく理解し、必要な指定科目を履修し単位を修得してください。詳細はガイダンス時に説明を行いますので必ず説明会に出席の上、受講手続きを取ってください。
- ・建築士試験の指定科目に関しては、転部生・転科生は個別の履修計画の指導を必ず受けてください。また、編入生は指定科目の単位認定確定後に個別の履修計画指導を行います。
- ・別表に□印が付してある科目は、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格に必要な指定科目です。これらの指定科目に関する詳細資料はガイダンス時に配布します。

4 卒業研究について

- ・ 3年次終了迄に 88 単位以上を修得していないと 4 年間で卒業できないため、4 年次のデザインゼミナール、卒業論文・制作を履修登録できません。
- ・ 卒業するには、デザインゼミナール 4 単位と卒業制作または、卒業論文 8 単位を必ず修得しなければなりません。なお、希望するゼミナールを履修するためには、そのゼミ担当教員の専門科目を 3 年次までに最低一つは修得しておく必要があります。

授業科目	授業年次	単位数	必修
A 理論・歴史部門			
デザイン論 I	1	2	2
デザイン論 II	1	2	2
ユニバーサルデザイン論	3	2	
美術学 I	3	2	
美術学 II	3	2	
施工概論	3	2	
構法概論	2	2	<input type="checkbox"/>
建築生産論	3	2	<input type="checkbox"/>
環境論 I	3	2	<input type="checkbox"/>
環境論 II	3	2	<input type="checkbox"/>
日本建築史	2	2	<input type="checkbox"/>
西洋建築史	3	2	<input type="checkbox"/>
美術史概論	1	2	
工芸概論	1	2	
グラフィックデザイン史	3	2	
コミュニケーションデザイン史	3	2	
インダストリアルデザイン史 I	3	2	
インダストリアルデザイン史 II	3	2	
B 研究部門			
デザイン情報論	3	2	
連携デザイン論	3	2	
タイポグラフィ論 I	2	2	
タイポグラフィ論 II	2	2	
エルゴノミクス概論 I	3	2	
エルゴノミクス概論 II	3	2	
プランニング I	2	2	<input type="checkbox"/>
プランニング II	3	2	<input type="checkbox"/>
力学	3	2	<input type="checkbox"/>
ストラクチャー I	3	2	<input type="checkbox"/>
ストラクチャー II	3	2	<input type="checkbox"/>
マテリアル	2	2	<input type="checkbox"/>
メカトロニクス概論 I	2	2	
メカトロニクス概論 II	2	2	
インダストリアルデザイン論 I	2	2	
インダストリアルデザイン論 II	2	2	
建築デザイン論	2	2	<input type="checkbox"/>

授業科目	授業年次	単位数	必修
インタラクシヨndeザイン論Ⅰ	2	2	
インタラクシヨndeザイン論Ⅱ	2	2	
デザインマネージメント論Ⅰ	3	2	
デザインマネージメント論Ⅱ	3	2	
建築設備	3	2	<input type="checkbox"/>
建築法規	3	2	<input type="checkbox"/>
図学Ⅰ	1	2	2 <input type="checkbox"/>
図学Ⅱ	1	2	2 <input type="checkbox"/>
サイエンスコミュニケーション論Ⅰ	3	2	
サイエンスコミュニケーション論Ⅱ	3	2	
デザイン特別講座Ⅰ	1	2	2
デザイン特別講座Ⅱ	2	2	
デザイン特別講座Ⅲ	3	2	<input type="checkbox"/>
C 表現技術部門			
(コミュニケーションデザイン)			
ドローイング	1	2	2
製図Ⅰ	1	2	2
製図Ⅱ	1	2	2
カラー&コンポジション	1	2	2
スタイル&フォーム	1	2	2
マテリアル&コンストラクション	1	2	2
デザインフィールドワークショップ	1	2	2
ベーシックデザインワークショップ	1	2	2
(ベーシックデザインⅠ)			
表現思考基礎	2	2	
ビジュアルランゲージ	2	2	
コンピュータ基礎Ⅰ	2	2	
コンピュータ基礎Ⅱ	2	2	<input type="checkbox"/>
メデア基礎	2	2	
インタラクシヨndeザイン基礎	2	2	
ネイチャー&サイエンスデザイン	2	2	
ソーシャルデザイン	2	2	
アーキテクチュアルドローイング	2	2	<input type="checkbox"/>
タイポグラフィックデザイン	2	2	
エディトリアルデザイン	2	2	
フォトグラフィⅠ	2	2	
フォトグラフィⅡ	3	2	
(ベーシックデザインⅡ)			
レンドーリング	2	2	
モデリング	2	2	
CADⅠ	3	2	
CADⅡ	3	2	
(グラフィックデザイン)			
サイエンスⅠ	3	2	
サイエンスⅡ	3	2	

授業科目	授業年次	単位数	必修
イラストレーション	3	2	
ビジュアルコミュニケーションⅠ	3	2	
ビジュアルコミュニケーションⅡ	3	2	
ビジュアルコミュニケーションⅢ	3	2	
ビジュアルコミュニケーションⅣ	3	2	
ビジュアルコミュニケーションⅤ	3	2	
テクニカルイラストレーションⅠ	3	2	
テクニカルイラストレーションⅡ	3	2	
(メディアデザイン)			
ネットワークデザインⅠ	3	2	
ネットワークデザインⅡ	3	2	
メディアイノベーションⅠ	3	2	
メディアイノベーションⅡ	3	2	
プロモーションデザインⅠ	3	2	
プロモーションデザインⅡ	3	2	
(インタラクティブデザイン)			
インタラクティブデザインⅠ	3	2	
インタラクティブデザインⅡ	3	2	
インタラクティブデザインⅢ	3	2	
インタラクティブデザインⅣ	3	2	
インタラクティブデザインⅤ	3	2	
(インダストリアルデザイン)			
インダストリアルデザインⅠ	2	2	
インダストリアルデザインⅡ	2	2	
インダストリアルデザインⅢ	3	2	
インダストリアルデザインⅣ	3	2	
インダストリアルデザインⅤ	3	2	
(プロダクトデザイン)			
プロダクトデザインⅠ	2	2	
プロダクトデザインⅡ	2	2	
プロダクトデザインⅢ	3	2	
プロダクトデザインⅣ	3	2	
プロダクトデザインⅤ	3	2	
(スペースデザイン)			
スペースデザインⅠ	2	2	<input type="checkbox"/>
スペースデザインⅡ	2	2	<input type="checkbox"/>
スペースデザインⅢ	2	2	<input type="checkbox"/>
スペースデザインⅣ	3	2	<input type="checkbox"/>
スペースデザインⅤ	3	2	
スペースデザインⅥ	3	2	
(アーキテクチュアデザイン)			
アーキテクチュアデザインⅠ	2	2	<input type="checkbox"/>
アーキテクチュアデザインⅡ	2	2	<input type="checkbox"/>
アーキテクチュアデザインⅢ	2	2	<input type="checkbox"/>
アーキテクチュアデザインⅣ	3	2	<input type="checkbox"/>

授業科目	授業年次	単位数	必修
アーキテクチュアデザインⅤ	3	2	<input type="checkbox"/>
アーキテクチュアデザインⅥ	3	2	<input type="checkbox"/>
デザインプロジェクトⅠ	3	2	
デザインプロジェクトⅡ (コラボレーションデザイン)	3	2	
総合演習	3	2	
インターンシップ	3	2	<input type="checkbox"/>
デザインゼミナール	4	4	4
卒業論文・制作	4	8	8

□印の科目は、建築士
受験資格の認定科目



第Ⅲ群（各学科共通自由科目）

Ⅰ 学芸員課程

本学部で学芸員資格取得を希望する者は下記により学芸員課程を履修しなければなりません。

① 必修科目（卒業単位には含まれません）

年次	科目名（単位数）		
1～3	博物館概論(2)	博物館資料論(2)	合計19単位
	博物館経営論(2)	博物館展示論(2)	
	博物館教育論(2)	博物館情報・メディア論(2)	
	生涯学習概論(2)	博物館資料保存論(2)	
4	博物館実習Ⅰ(2)	博物館実習Ⅱ(1)	

② 選択科目（卒業単位に含まれます）

下表4系列の中から**2系列8単位（各系列最低4単位）**以上を修得してください。

系列	科目名（単位数）
文化史	写真史Ⅰ(2) 写真史Ⅱ(2) 日本映画史Ⅰ(2) 日本映画史Ⅱ(2) 外国映画史Ⅰ(2) 外国映画史Ⅱ(2) ドキュメンタリー映画史(4) 音楽史Ⅰ(2) 音楽史Ⅱ(2) 日本文化史(4) 演劇史Ⅰ(2) 演劇史Ⅱ(2) ラジオ史(4) テレビ史(4) グラフィックデザイン史(2) コミュニケーションデザイン史(2) インダストリアルデザイン史Ⅰ(2) インダストリアルデザイン史Ⅱ(2) 日本建築史(2) 西洋建築史(2)
美術史	美術史概論Ⅰ(2) 美術史概論Ⅱ(2) 美術史概論Ⅲ(2) 美術史概論Ⅳ(2) 美術史概論(2) 工芸概論(2) 西洋美術史Ⅰ(2) 西洋美術史Ⅱ(2) 西洋美術史Ⅲ(2) 西洋美術史Ⅳ(2) 日本美術史Ⅰ(2) 日本美術史Ⅱ(2) 日本美術史Ⅲ(2) 日本美術史Ⅳ(2)
民俗学	民俗芸能文化論(2) 日本の芸能史(2)
考古学	東アジア世界の考古学Ⅰ(2) 東アジア世界の考古学Ⅱ(2)

③ 博物館実習について

- (1) 博物館実習Ⅰ，博物館実習Ⅱの履修者は，博物館概論，博物館資料論，博物館経営論，博物館展示論，博物館教育論，博物館情報・メディア論，生涯学習概論，博物館資料保存論の単位をすべて修得した者としませんが，成績状況等により受講者を制限する場合があります。
- (2) 博物館実習Ⅱは4年次に博物館実習Ⅰの授業受講に併行して，学外実習施設あるいは芸術学部芸術資料館において館務実習を行います。詳細は3年次1月，4年次4月のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。
- (3) 博物館実習Ⅰ，博物館実習Ⅱ履修者は4年次4月に実習費を徴収します。詳細は4年次4月のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。

2 司書教諭課程

本学部で司書教諭資格取得を希望する者は、下記により司書教諭課程を履修しなければなりません。

- ① 司書教諭とは、学校図書館法に定められた教諭であり、学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導、さらには、学校図書館の利用指導計画を立案し、実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担います。司書教諭の資格を得るためには、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教諭の免許状（免許の種類・教科は問いません）を取得するとともに、下表の5科目10単位を全て修得しなければなりません。そのため、原則として教職課程履修者のみ司書教諭課程を履修することができます。なお、**司書教諭課程科目は卒業に必要な単位数には含まれません。**

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目		本学部における開講科目			
科目	単位数	授業科目名	単位数	区分	年次
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	必修	2
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	必修	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	必修	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	必修	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	必修	2

- ② 司書教諭の資格は、文部科学省が交付する「司書教諭講習修了証書」によって証明されます。申請方法等の詳細については6月ごろに掲示でお知らせしますので必ず確認してください。

3 司書課程

本学部で司書資格取得を希望する者は、下記により司書課程を履修しなければなりません。

司書とは、図書館法に定められた、都道府県や市町村の公立図書館等で図書館資料の選択、発注及び受け入れから、分類、目録作成、貸出業務、読書案内などを行う専門的職員です。司書資格の取得を希望する者は、下表の13科目24単位を全て修得しなければなりません。なお、**司書課程科目は卒業に必要な単位数には含まれません。**

法令上の科目		本学部における開講科目			
科目名	単位数	授業科目名	単位数	区分	年次
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	必修	1
図書館概論	2	図書館概論	2	必修	2
図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	必修	2
図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	必修	3
図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	必修	2
情報サービス論	2	情報サービス論	2	必修	2
児童サービス論	2	児童サービス論	2	必修	2
情報サービス演習	2	情報サービス演習	2	必修	3
図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	必修	2
情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	必修	2
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	2	必修	3
図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	1	必修	3
図書館総合演習	1	図書館総合演習	1	必修	3

※ 「生涯学習概論」は司書課程と学芸員課程との共通科目となります。

IV 教職課程

1 本学部で教育職員免許状取得を希望する者は、下記により教職課程を履修しなければなりません。

2 免許教科の種類

- | | |
|--------------|---------------|
| ① 中学校教諭一種免許状 | ② 高等学校教諭一種免許状 |
| 国語 | 国語 |
| 音楽 | 音楽 |
| 美術 | 美術 |
| | 工芸 |

3 免許状の種類及び本学部における必要修得単位数

A表

免許状の種類	所要資格	基礎資格	① 基礎必修科目 (B表)	教科及び教職に関する科目		
				② 教育の基礎的理解 に関する科目 (C表)	③ 教科及び教科の 指導法に関する科目 (D表)	②+③の合計
中学校一種免許状	学士の学位を有すること	8 単位以上	28 単位以上	31 単位以上★	59 単位以上	
高等学校一種免許状	学士の学位を有すること	8 単位以上	24 単位以上	35 単位以上	59 単位以上	

★ 国語の中・高一種免許状については 35 単位以上修得する必要があります。

4 単位の修得方法

① 基礎必修科目

基礎必修科目として「日本国憲法」(2)「体育」(2)「外国語コミュニケーション」(2)「情報機器の操作」(2)計8単位を修得する必要があります。本学部における基礎必修科目はB表のとおりです。

B表 基礎必修科目

法令で定める基礎必修科目(単位数)	本学部における基礎必修科目(単位数)	最低修得単位	計
日本国憲法(2)	日本国憲法(2)	2	8
体育(2)	健康・スポーツ科学(2) 体育実技Ⅰ～Ⅵ(各1)	2	
外国語コミュニケーション(2)	英語Ⅱ(2) ドイツ語Ⅱ(2) フランス語Ⅱ(2) イタリア語Ⅱ(2) 中国語Ⅱ(2) 日本語Ⅱ(2)	2	
情報機器の操作(2)	情報Ⅰ(2) 情報Ⅱ(2)	2	

② 教育の基礎的理解に関する科目等

教育の基礎的理解に関する科目等の本学部における最低修得単位数はC表に示すとおりです。教育職員免許法施行規則上の修得単位数と全く同じで余剰がありません。全科目必修で28単位修得しなければなりません。C表の教育の基礎的理解に関する科目等は卒業に必要な単位数には含まれません。

C表 本学部における教育の基礎的理解に関する科目等の単位数

年次	必修科目 (単位数)	単位数合計	
		中一種	高一種
1	○教育原論 (2) ○現代教職論 (2) ○教育の社会学 (2) ○教育課程論 (2)	8	8
2・3	○発達と学習 (2) ○特別支援教育概論 (1) ⊕道徳教育の理論と方法 (2) ○特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (2) ○教育の方法・技術論 (2) ○生徒指導・進路指導論 (2) ○教育相談 (2)	13	11
4	○教育実習事前・事後指導 (1) ※1 ⊕教育実習 I (4) 又は ○教育実習 II 〈高免のみの者〉 (2) } ※2 ○教職実践演習 (中・高) (2)	7	5
	計	28	24

C表の⊕中は、中学校一種免許状取得希望者の必修科目で、高等学校一種免許状のみの取得希望者は修得する必要はありません。

(※1) 教育実習事前・事後指導 (1) は4年次修得科目ですが、3年次の6月及び11月に教育実習事前指導として特別講義が行われます。これに出席することで4年次に教育実習事前・事後指導 (1) を登録することができます。3年次の教職用掲示に注意してください。

(※2) 教育実習は4年次に行います。原則として教職実践演習 (中・高) (2)、教育実習事前・事後指導 (1)、教育実習 I (4) 又は教育実習 II 〈高免のみの者〉 (2) 以外の教育の基礎的理解に関する科目等を修得していること及び卒業見込みのあることが条件となります。

教育実習校は2・3年次中に決定します。詳細についてはガイダンスで説明しますので必ず出席してください。

なお、美術学科・デザイン学科の学生で高等学校一種工芸免許状を取得予定の者は、「工芸」での教育実習の受入れ先が少ないため、「美術」での教育実習の受入れ先を探すことを推奨します。

③ 教科及び教科の指導法に関する科目

修得すべき教科及び教科の指導法に関する科目は免許教科によって違いがあります。教科別に表示するとD表のようになります。本学部においては、D表中より○印を付した必修科目を含め中・高一種免許状は31単位以上（国語は35単位以上）、高等学校一種免許状のみは35単位以上修得しなければなりません。

(注1) D表中の最低修得単位とは法律上（免許法施行規則）によるものであり、本学部における修得単位数とは異なりますので、注意してください。

(注2) D表中の□印は美術学科・文芸学科の教職教科部門に属する科目（シラバス・時間割の教職欄記載科目）で、教職免許を取得するための科目であり、卒業単位には含まれません。

(注3) D表中の、国語科教育法、音楽科教育法、美術科教育法、工芸科教育法などは、免許状を取得しようとする教科についての教育法の科目です。Ⓜは、中学校一種免許状取得希望者の必修科目です。

D表 教科及び教科の指導法に関する科目の単位数

免許教科	学科	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位	芸術学部開講科目	
					科目名(単位数)	
国語	文芸学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1	○国語学(4) 小説論(4) 創作論Ⅰ(4) 創作論Ⅱ(4)
				国文学 (国文学史をを含む。)	1	○国文学(4) 古典文学史(4) 現代文学史(4) 児童文学論(4) 文芸批評論(4) 日本文化史(4) 作家作品論(4)
				漢文学	1	○漢文学(4) 漢文学史(4)
				書道 (書写を中心とする。)	1	Ⓜ書道(4)
				各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○国語科教育法Ⅰ(2) ○国語科教育法Ⅱ(2) Ⓜ国語科教育法Ⅲ(2) Ⓜ国語科教育法Ⅳ(2)
音楽	音楽学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	1	○ソルフェージュⅠ(2) ○ソルフェージュⅡ(2)
				声楽 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	1	○合唱Ⅰ(2) ○声楽Ⅰ(4)又は副科声楽Ⅰ(2) ○音楽教材演習(2) 声楽Ⅱ(4) 副科声楽Ⅱ(2) 合唱Ⅱ(2)
				器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	1	○伴奏法Ⅰ(2) ○教育用楽器等合奏法(2) ○ピアノⅠ(4)又は副科ピアノⅠ(2) 伴奏法Ⅱ(2) 弦楽器Ⅰ(4) 弦楽器Ⅱ(4) 副科弦楽器Ⅰ(2) 管打楽器Ⅰ(4) 管打楽器Ⅱ(4) 副科管打楽器Ⅰ(2) ピアノⅡ(4) 副科ピアノⅡ(2)
				指揮法	1	○指揮法演習(2)
				音楽理論、作曲法(編曲法を含む。)及び音楽史 (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	1	○音楽学Ⅰ(4) ○作曲Ⅰ(4)又は副科作曲Ⅰ(2) ○音楽史Ⅱ(2) 音楽学Ⅱ(4) 音楽形式学(4) 音楽史Ⅰ(2) 作曲Ⅱ(4)
				各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○音楽科教育法Ⅰ(2) ○音楽科教育法Ⅱ(2) Ⓜ音楽科教育法Ⅲ(2) Ⓜ音楽科教育法Ⅳ(2)

※網掛けの各科目に含めることが必要な事項「書道」については、中学校一種国語のみ必修科目のため、高等学校一種国語の単位には含まれない。

免許教科	学科	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位	芸術学部開講科目	
					科目名(単位数)	
美術	美術学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	絵画 (映像メディア表現を含む。)	1	○デッサン(1) ○デザイン論Ⅱ(2)
				彫刻	1	○彫塑(1)
				デザイン (映像メディア表現を含む。)	1	○美的構成研究Ⅰ(2) ○美的構成研究Ⅱ(2) ○映像メディア研究(1) ○版画基礎(1)
				工芸	1	○美術教材研究Ⅰ(2) 又は美術教材研究Ⅱ(2) 工芸演習Ⅰ(2) 美術作品研究Ⅰ(2) 美術作品研究Ⅱ(2) 美術作品研究Ⅴ(2) 美術作品研究Ⅵ(2)
				美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	1	○美術学Ⅰ(2) ○美術学Ⅱ(2) ○美術史概論Ⅰ(2) ○美術史概論Ⅱ(2) ○美術史概論Ⅲ(2) ○美術史概論Ⅳ(2) ○日本美術史Ⅰ(2) ○日本美術史Ⅱ(2) 古美術研究(4) 西洋美術史Ⅰ(2) 西洋美術史Ⅱ(2)
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			1	○美術科教育法Ⅰ(2) ○美術科教育法Ⅱ(2) Ⓜ美術科教育法Ⅲ(2) Ⓜ美術科教育法Ⅳ(2)	
	デザイン学科	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	絵画 (映像メディア表現を含む。)	1	○ドローイング(2) ○カラー&コンポジション(2) ○スタイル&フォーム(2)
				彫刻	1	○マテリアル&コンストラクション(2) ○デザインフィールドワークショップ(2)
				デザイン (映像メディア表現を含む。)	1	○デザイン論Ⅰ(2) ○デザイン論Ⅱ(2) ○ベーシックデザインワークショップ(2) ビジュアルコミュニケーションⅡ(2) エディトリアルデザイン(2) プロダクトデザインⅠ(2) プロダクトデザインⅢ(2) スペースデザインⅠ(2) スペースデザインⅡ(2)
				工芸	1	ビジュアルコミュニケーションⅣ(2) インダストリアルデザインⅠ(2) インダストリアルデザインⅢ(2) フォトグラフィⅠ(2) スペースデザインⅢ(2) スペースデザインⅣ(2) アーキテクチャデザインⅠ(2) アーキテクチャデザインⅡ(2)
美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)				1	○美術学Ⅰ(2) ○美術学Ⅱ(2) ○美術史概論(2) ○工芸概論(2) 日本建築史(2) 西洋建築史(2) インダストリアルデザイン論Ⅰ(2) グラフィックデザイン史(2)	
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			1	○美術科教育法Ⅰ(2) ○美術科教育法Ⅱ(2) Ⓜ美術科教育法Ⅲ(2) Ⓜ美術科教育法Ⅳ(2)		

※網掛けの各科目に含めることが必要な事項「工芸」については、中学校一種美術のみ必修科目のため、高等学校一種美術の単位には含まれない。

免許教科	学科	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位	芸術学部開講科目
					科目名(単位数)
工 芸	美術学科	教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項	図法及び製図	1	○図学Ⅰ(2)
			デザイン	1	○美的構成研究Ⅰ(2) ○美的構成研究Ⅱ(2) ○版画基礎(1)
			工芸制作 (プロダクト制作を含む。)	1	○美術教材研究Ⅰ(2)又は美術教材研究Ⅱ(2) ○工芸演習Ⅰ(2) 彫塑(1)
			工芸理論、デザイン理論 及び美術史(鑑賞並びに 日本の伝統工芸及びアジア の工芸を含む。)	1	○デザイン論Ⅱ(2) ○美術作品研究Ⅰ(2) ○美術作品研究Ⅱ(2) ○美術作品研究Ⅴ(2) ○美術作品研究Ⅵ(2) 美術史概論Ⅰ(2) 美術史概論Ⅱ(2) 美術史概論Ⅲ(2) 美術史概論Ⅳ(2) 日本美術史Ⅰ(2) 日本美術史Ⅱ(2)
			各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○工芸科教育法Ⅰ(2) ○工芸科教育法Ⅱ(2)
	デザイン学科	教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項	図法及び製図	1	○図学Ⅰ(2) ○製図Ⅰ(2)
			デザイン	1	○ベーシックデザインワークショップ(2) ビジュアルコミュニケーションⅡ(2) エディトリアルデザイン(2) プロダクトデザインⅠ(2) プロダクトデザインⅢ(2) スペースデザインⅠ(2) スペースデザインⅡ(2)
			工芸制作 (プロダクト制作を含む。)	1	○インタラクションデザインⅠ(2) ○インタラクションデザインⅡ(2) 又は ○インダストリアルデザインⅠ(2) ○インダストリアルデザインⅡ(2) 又は ○アーキテクチャデザインⅡ(2) フォトグラフィⅠ(2) ビジュアルコミュニケーションⅣ(2) ビジュアルコミュニケーションⅤ(2) インダストリアルデザインⅢ(2) インダストリアルデザインⅣ(2) スペースデザインⅣ(2) アーキテクチャデザインⅠ(2)
			工芸理論、デザイン理論 及び美術史(鑑賞並びに 日本の伝統工芸及びアジア の工芸を含む。)	1	○デザイン論Ⅰ(2) ○デザイン論Ⅱ(2) ○美術史概論(2) ○工芸概論(2) タイポグラフィ論Ⅱ(2) エルゴノミクス概論Ⅰ(2) プランニングⅠ(2)
			各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	1	○工芸科教育法Ⅰ(2) ○工芸科教育法Ⅱ(2)

5 介護等体験について

中学校の教育職員免許状取得希望の者(高等学校のみは除く)は、取得条件として、7日間の介護等体験(社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間)が義務づけられています。

本学部では、介護等体験は2年次生以上を対象に実施しています。詳細は4月に2年次生対象のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。また、体験費は4月に徴収します。

なお、教職課程についてのガイダンスは、原則として在学生ガイダンス期間中に行いますので、日程などは、教務課掲示に注意し、不明な点は、教務課に問い合わせてください。

6 教育職員免許状一括申請について

最終学年に本学がまとめて授与権者である東京都教育委員会に申請します。4月に申請の申込み、翌年1月に申請内容の確認・申請料納入手続きなどを行います。詳細は4年次4月のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。